


寛永諸家譜

清和源氏壬四冊之内
滿政流

50

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186(54)		
函號		76	1



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





山田 畠田 小嶋 高屋 樋口

寛永諸家系圖傳

清和源氏

壬二

海政流 山田

● 重則

十大丈

生國之州

東照大権現より清久なるてまう

元龜三年十二月廿二日臺州之方原

淺草文庫

津合戦の時徳をあらせ首級とゆふり
天正三年五月廿一日三州長瀬此戦場に
て首級二つをゆふりこも後三州徳に
の原高天神等ふたわく首とゆふり
嫡子重利濱松の津城におわく坂作自膳
と口論し自膳を討つたのこもせも
大権現勇士をあらせなふぬに重則その
縁坐よあらせられしをゆふりしをわ
ふれこれよあらせし重則その津厚思

此如くけふきこもを感て一通の
書とゆふりし刑よあらせしこも天正
十二年四月九日長久手津合戦此とき
首二つあらせ討死時よぬ十三歳
法名永償

重利

十六丈 生國回前

天正五年重利十二歳此時

大権現と降しをり湯小姓の湯奉公を
つゆむ十八歳の時濱松北津城におおく
坂作と膳と口端しと場におおて討果
すべきところよ湯前ちうきとともかりぬ
朝津門外におおきたるひは河とかり
おと坂作と膳と討てしらの

大権現右北口端の秋子湯澤子ひくく
こころめされ重利の軍たりせしごと
湯前とともかり神妙よおのり

也の ときゆくあぶらにその在所と
たつたましらすと後井伊共初少補
直政し属と

同十八年小田原津陣北時藤曲福めて
併と系統とあしを疵とかりし井伊
直政取としらののさ蒲生虎弾守氏卿
し属と

同年十二月奥州妙地城よそ名を
しし疵とかりし首級とゆり

同十九年七月奥州九部くわいにかわく高名

ありげ内鑑ち症ぢニケ所かくう系けいる此この

軍功ぐんこうお

重利ちゅうり蒲生氏郷うぶしげ所ところよこれあり時

大権現おほいけんげんより

右徳院殿みぎとくゐんへ河内かゐ證し少すく重利ちゅうりへ河内かゐふと

立たべきりのよりよりめめかかるる武ぶ吉きちはは修しゆ

よりより長なが六年ねん

右徳院殿みぎとくゐんへ河内かゐはは未み比ひ千石せんごく下くだされ

佛使ぶつし番ばん此こゝ役やくとつとつ少すく也なり

元和元年五月七日大坂陣おおいさか

右徳院殿みぎとくゐんの作しやくよりより諸軍しよぐんに命めいのおも

むむこことつとつくく味方あじかたの勢せいと急いそよよここと

ひひかかららししむむ重利ちゅうり郎らう後ご為なと力ちから戦いくさして

首くび六級むつぐわいとゆゆりり良後らご症ぢとわわるるああ系けいもの

日ひづづうう一人ひとりなり

河内陣かゐじん乃すなは時ときにに安やす依よ渡わたるる正ただ信しん重利ちゅうりが

軍功ぐんこうと

大指現の上聞しやうけんよ進しんけいけいはまふら重利

石小應いせて御前ごぜんよいざまはしく重利

徳とくと彈たま歴れきす親事おんじ二十二年の頃

台たい顔がんと津つ一いつまりかかげげふふと

此こらる事こととお謝あやまと

元和二年大坂おとく軍功ぐんこうの御恩おんたま賞

也やと津つ加増かぞ五百石と下くだる

同九年与力よりき十騎じゆき津つ鑓やり炮ぱう足あし将しやう二十人位

つけられ

寛永十年津加増千石ちんせき御領ごりやうと都合つひ二

千六百石

同十二年二月二日死す七十一歳

法名ほうな了傳りやうでん

重恒しげつね

内務助うちむすけ 後ご二十方丈じふたうぢやうと号ごうと 生國武州

元和八年

台徳院殿

為軍家とあしなくまらる

寛永十二年七月沖小姓こしやう此こゝ沖書おきとつ

ゆめ父ちちがまじい二にひ百ひゃくるるとなまなまらる

重安 ちゆうあん

将六郎しょうろくろう後ごよななとああららななむ

生田武州いけたぶしゅう

寛永九年

將軍家とあしなくまらる

同十年どうじゅうねんよりより沖書おき院いん書しょとつとつ也や

同十一年どうじゅういちねん沖切おききり末すえと沖領おきりやう也や

家紋いゝのり之の翻ひら



山田

● 重吉

甚八郎 彦右衛門 生國之州 富永

東照大権現（流久）

元龜三年 味方原 涉合 戦の時 壺州 濱

松よか かく 討死

重純 ちかづみ

甚五郎 生國同前

大指現へ流る人たゞくまらぬ

天正十二年尾州小牧陣此时长久之

の御合戦は款此首を討たて御旗をへ

らち来り重純より先に名のある者あり

く首実檢ごりげ一たまふや御前ごんまへ一たつこ

けはばらる首之つきたる中をゆきとすはつ

目此首 上鏡かみにうあふふよおよばせとせ

つさく教陣てうじんへひけり討死うちころ時よ女八歳

正次 ただよ

甚八郎 指大建の尉 生國同前

天正十八年小田原陣此の時

是年五年奥州陣おくしゅうよりびよひよ關原せきがはら陣

陣の時

大指現よとさかひなふ

大坂^{おさか}の夜^よの陣^{じん}の時

右^{みぎ}徳院^{とくゐん}殿^の此^{こゝ}に^に侍^{まゐ}りて

右^{みぎ}軍家^{ぐんけ}を^をあ^はら^はりて

寛永十五年八月十日六十四日少く病死

法名^{ほふな}道与^{ちよ}

正勝^{まさかつ}

右^{みぎ}軍家^{ぐんけ}を^をあ^はら^はりて 生國^{なまくに}武州^{ぶしゅう}

寛永九年十月廿八日少く病死

右^{みぎ}軍家^{ぐんけ}を^をあ^はら^はりて

同十二年十二月六日少く病死

重勝^{しげかつ}

甚^し入^い郎^{らう} 生國^{なまくに}武州^{ぶしゅう}

大^{おほ}権^{けん}現^{げん}

右^{みぎ}徳院^{とくゐん}殿^の

右^{みぎ}軍家^{ぐんけ}を^をあ^はら^はりて

寛永十三年八月十五歳少く病死

法名^{ほふな}春夏^{はるげ}

膳房

六無邊

生國後州

寛永六年十一月

將軍家とありし人にてまう

家級二頭いのりんの左巴ひざり

某

山田

小笠原長清尉

累代之州幡豆郡此領地之領主

某

民部少輔

之州幡豆郡に在り

東照大権現は人なる

時忠

市苑 生國同あ

大権現は人なくも 駿州之牧指(松平)

周防守を加勢也しくさつひささし時

之時はおおく討死すも時敵一人を

うらやま

重次

山田清大史 生國同あ

山田八苑が書子もなるこの由は山田と

あつたじ

大恩孫四郎逆心乃時山田八苑

大権現は属しなり忠節をぬきんづき

のら八苑三州恩傍はおおく福し

討しし由領地をせしとらぬし後

重次書父八苑がかきと付くこと下

の疵きずをかぐふ系けい時ときはま次じ十五い歳さいにれは
よりて聖年ねん

大お極ご現げんへりかうれ別はま比ひをなまりる

小お田た原はら陣じん奥おく州しゅう陣じんに仕なす

大お極ご現げんより

台たい漣れん院いん殿でんへり清せい家け人にん等らをかたまふ時重ちゆう次じ

その中ちゆうにくわらひます

台たい漣れん院いん殿でんははくしなす

長ちやう又また年ねん志し田でん陣じんは仕なす

同どう十じゅう九く年ねん大だい坂ばん津つ陣じんの時伊い目め付づとおり

石いし見み圃ぼはおもむきう道みちより並ならぶ

大だい坂ばんはおりして

元げん和わ元げん年ねん大だい坂ばん年ねん礼らいの時依よりて

首くび級きゆうを均す

同どう二に年ねん伏ふ見みの町を治となふ系重ちゆう次じ後ご

駿しゆん府ふの町を治となふ

寛かん永えい八はち年ねん死しす時は五十じゅう四し歳さい

重棟 ちゆうとう

清大友 きよおとも 生國武剛 なまくに たけつら

慶長十九年 けicho じゅうくじゅうねん

右徳院殿をあるはる

元和七年正月清小姓組の御番を法

とし

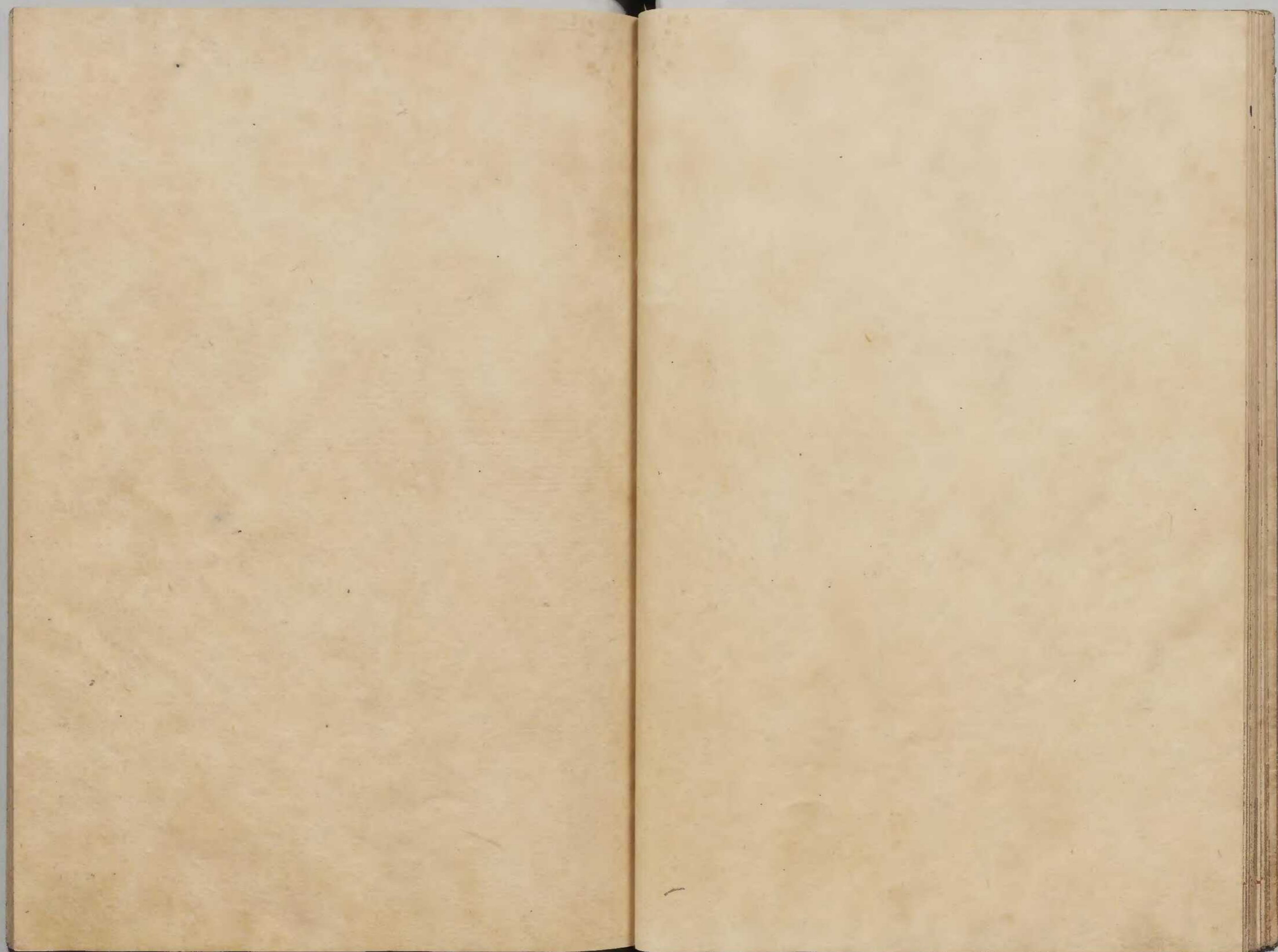
寛永三年忠長卿へ御書

同十二年めに出はせり

將軍家とあるはる

同十六日清小姓組の御番となす

家紋 いえもん 巴 えび



正直

山田

村尾大丈波政シロカウが流リウ山サン々ク本曾義仲キソキヤウ
が郎ラウ小山田次郎コヤマダジラウが末孫マヘソノあり

金六郎キネロウ 生國之州ナマクニノシマ

天正十二年テンシウジニヤシ

東照大権現乃依奉トウショウダイケンゲンノヨイホウ々々クク小牧コマキよおわ々々クク

討死

正重まさしげ

他馬たば

生國回前

大権現（法久）より三州よりおわく病死（病）

正久まさひさ

次郎右史

生國回前

大権現（法久）より三州よりおわく

慶長九年十二月三日武州（法久）よりおわく
病死（病） 法名淨安

正清まさひら

老忠（法久）

生國回前

享長九年六月十六日

台徳院殿より（法久）たゞまうらうおわく

將軍家より（法久）

正信ふ

八尾藩つ

生國ふ武州し江戸

將軍家つ（流人し）

家い級の九ん此ま内も下り劍けん鳩た酸た草ぐさ

● 梟

山田

角之丞

生田之州

東照大権現へ流る人たゞし

元龜三年 之方原合戦の時討死

正重

之右衛門

病ありく之州 閑居也

元和三年病死

正長

八郎右衛門 生國之刑足助

寛永六年

右衛門殿

右軍家へはく人たりし

家紋丸の内之星

山田

●
重直 三十一

八郎 長清

生田 三十一
三州

重俊 三十一

松右清 三十一

生田 三十一
三州

東照大権現へ
清人等

重信のり

与普唐 生國司家

大権現へつゝ人たゞくまらぬ

元和九年駿州まゐりとて四十七歳まゐり死

重繩のり

控右衛門

生玉たまを以

右衛門殿

將軍家へ侍人まへを奉

重成のり

七郎右衛門

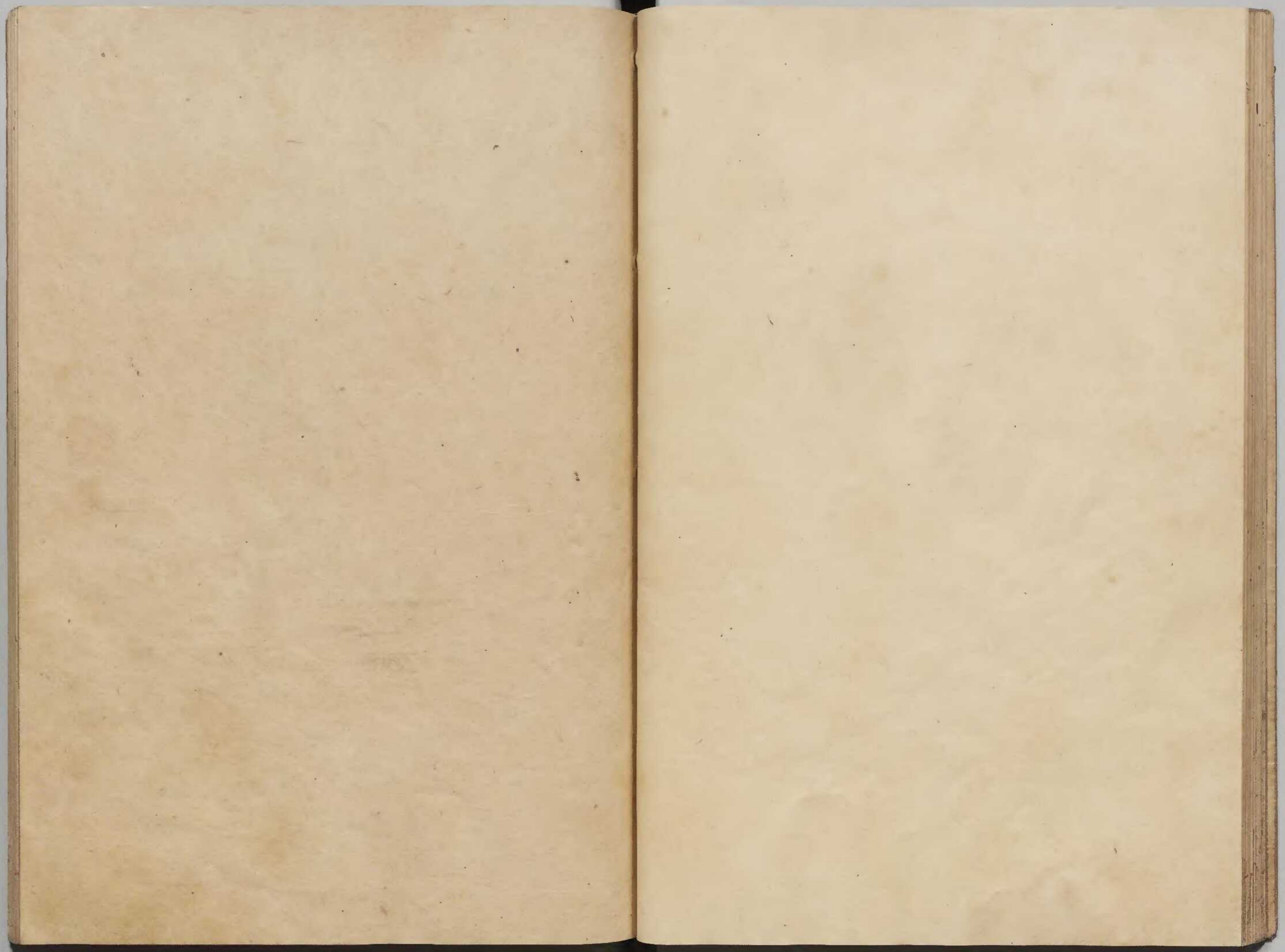
生玉たま武州

元和九年

右衛門殿侍上流乃内継目つぎめ此侍目このまへ見み後

忠長ただなが郷ごうへ侍まへふ

家いへ級ぐい丸まるの内うちよよたた巴は之し



山田

集

友五郎

生酒之州

松平内膳正清定同監物家次ノ流

子

永禄元年尾州科野合我の時死

時日三十三

正勝まさかつ

志賀左衛門 生國回前

松平監物家次回与市忠次回与次郎

忠吉回内膳正家廣回左馬允忠邦

はふ

天正十二年尾州小牧陣乃討首級

とゆらり

東照大権現之功を賞しなまひし永樂

信勝のぶかつ

左吉 生國回前

大次郎左衛門回お羽守にはふ

後之費五百文をたまひりて一貫文を首一
級の賞也なまひし一級ハ正勝と之州此
任人筒井平清とねららに是とさふ
ゆへに百文をさげく筒井よなまひり
享長十三年十二月死よ六十二歳

寛永四年十一月死す六十六歳

信治のぶち

小長清

生國なまくにを江

寛永十二年十二月

百ひゃく廿にじゅう二に歳さい

將軍家よつとて家時いえときよ二十にじゅう二に歳さい

家いえ級きゅう九く内うちにに劔けん鳩と酸さん草そう

山田

● 春吉

傳右馬

生國甲州

右衛門殿

將軍家とありて

寛永十一年病死

法名室傳

長次

傳十郎 生四武剛

幼少ゆく父春吉よもふおん中い

家督おろす 作付らぬ

家紋詳を

集

修理亮 よりのつけ

生國同前

● 集

まが

山田中務少輔 まがづきのま

生國尾州 まがのびし

畠田 はた

先祖代々山田と稱せしは畠田といふ

某

与九郎

生國同前

重能

助左衛門

生國同前

信長に属す

天正十年八月十六日病死

善同

右近

膳六郎

将監

伊勢守

後五位下に叙す

生國同前

東照大権現

右衛門殿

乃軍家一人也

寛永八年七十四歳中病死

善政

将監

生國同前

大権現

右徳院殿

將軍家と^と洋^と一^と子^と親

家^い紋^の鳩^{りん}酸^こ草^{まみ}

集

小嶋

源茂

生國三州

廣忠郷

東照大権現より人なり

専長十六年病死す八十三歳

正重まさしげ

源右衛門

生田同前

大権現

右衛門殿ごうごうより奉云す

元もと和わ二年病死也

忠余ただよ

助すけ右衛門

生田同前

大権現

右衛門殿

將軍家につくたくまつり五百石ごひゃくしやくに給たまはせ

たまはせ

正吉まさよし

孫まご右衛門

生田同前

右衛門殿

將軍家より奉云す

正勝まさかつ

源七郎

大権現

右徳院殿

將軍家より侍人たりまうけ

正利まさとし

源左衛門

生國武剛ふさむね

將軍家より侍人たりまうけ所腰物奉

新あらたなる

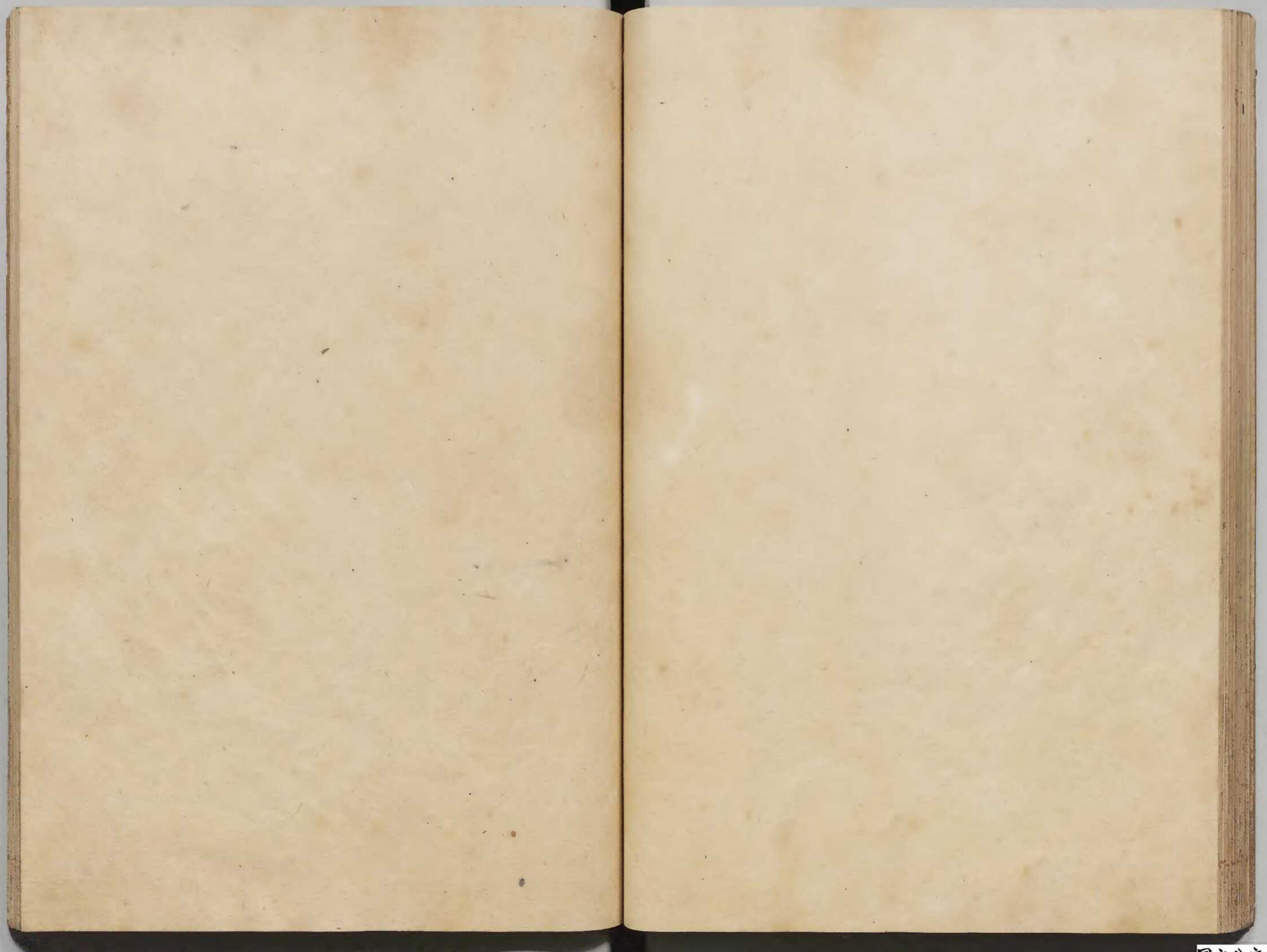
正朗まさろう

源太郎

生國同前

將軍家より侍こころなり云す

家紋いのかん九まる此うら内うちに白鳩しろとむ二



小嶋 こじま

● 巢 すくも

豊前守 ぶんぜんのかみ

生國 なかつくに

貞延 さかえ

次郎 じろう

生國 なかつくに

寛永四年十月廿七日病死年七十二

法名宗信

賢廣

忠告清 生國河前

元和六年十一月廿二日

為軍家とありたること

重俊

久た忠の尉 生心越後

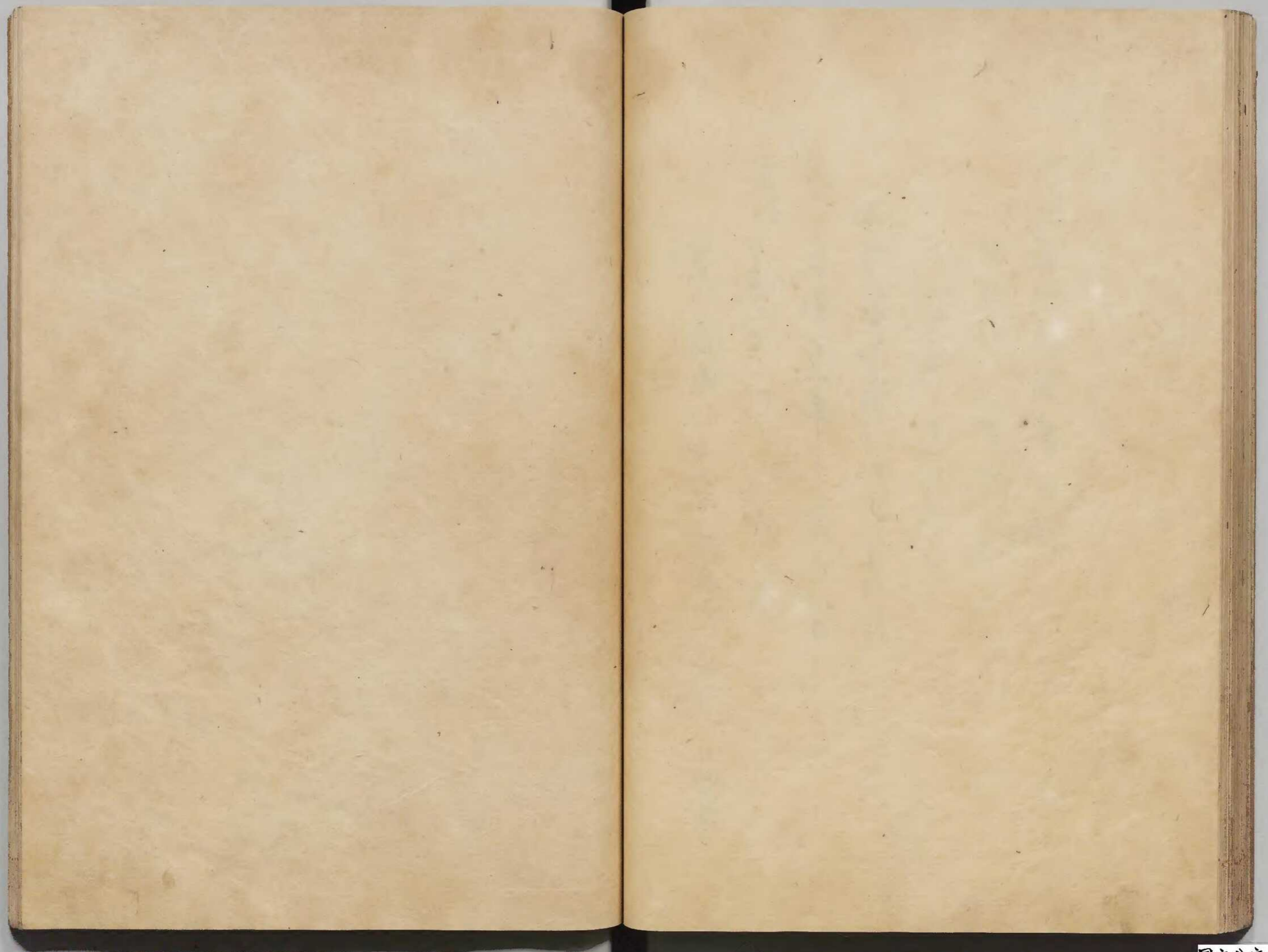
實ハ蘆屋八郎右衛門忠元二男より賢廣

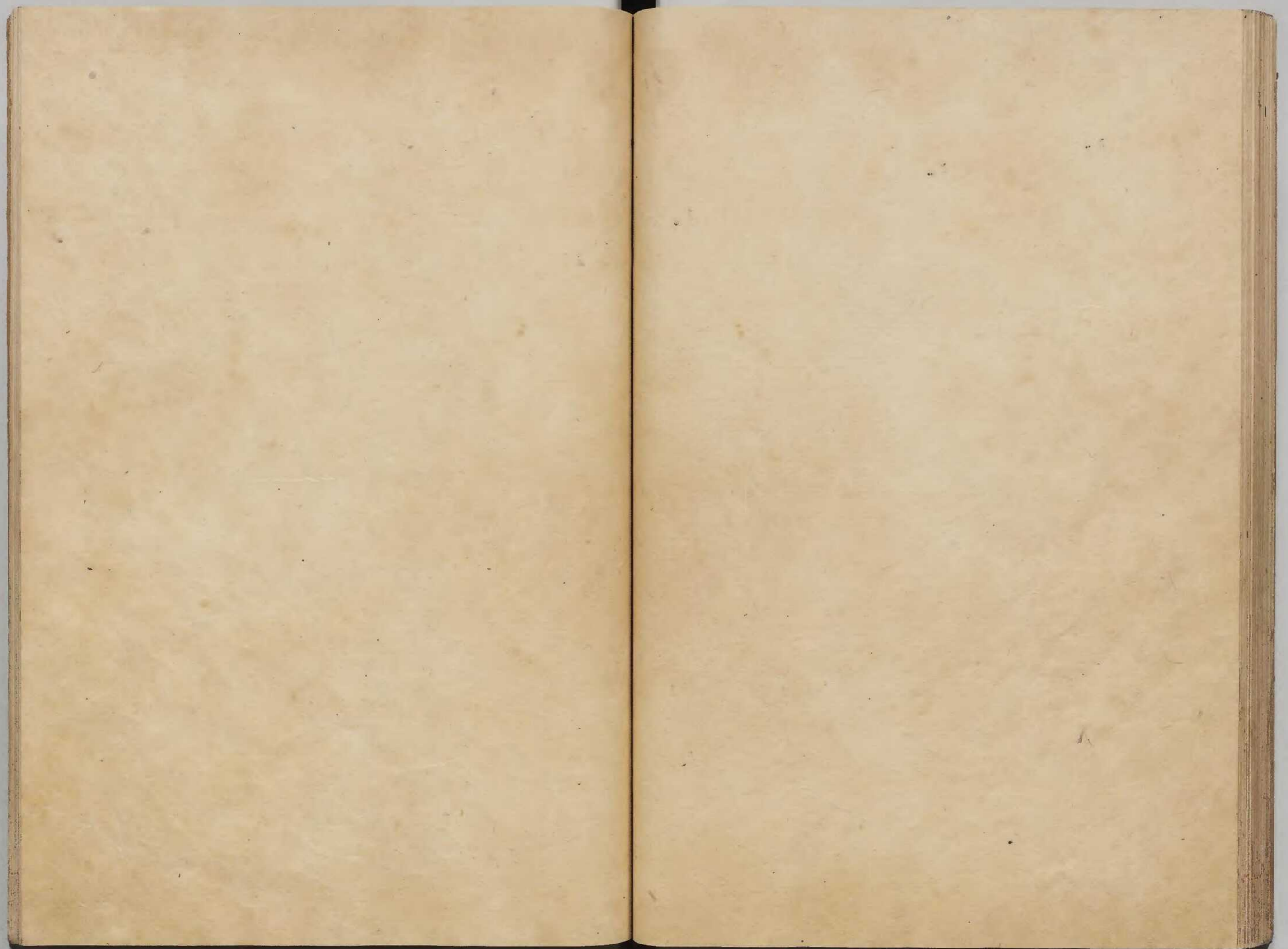
が書子となり小嶋の家と並び

寛永十二年十二月廿八日

為軍家とありたること

家紋井筒菱式ハ摺





梟

蘆屋を奪ひし 蘆屋ハ友原氏あり
家級と頭た巴

天文七年十月七日八正院義昭と源晴氏
ありびに小糸氏總と総州團府の巻
少く一戦の時義昭は屬しと討死

法名長泉

梟

右邊門尉 幸江守 生國下總
義昭の子純淳は屬し安房北國

おもむき里見氏に志しと総州一
の城は住居し度く戦場よかりし
功あり

天文十七年正月七日年六十六少く
病死 法名長昌

忠知 たかし

善茂

生國上総 うぶくに

天正十八年の秋

東照大権現とありなり

翌年上総國市原郡にいく五百石あり

慶長三年四月廿六日年三十三歳

病死 法名長善

善膳 たかし

善茂

生國同前

慶長三年

大権現

台漣院殿より御目見しに忠知が善膳と

しる

同五年高田陣の時

台漣院殿の侍あり

同年涉加増百石あり

忠元

同十二年八月十八日年女二少く死
法名月花

八郎大進尉 生四回

幼少しく父兄にまかす
御前へ百かたす

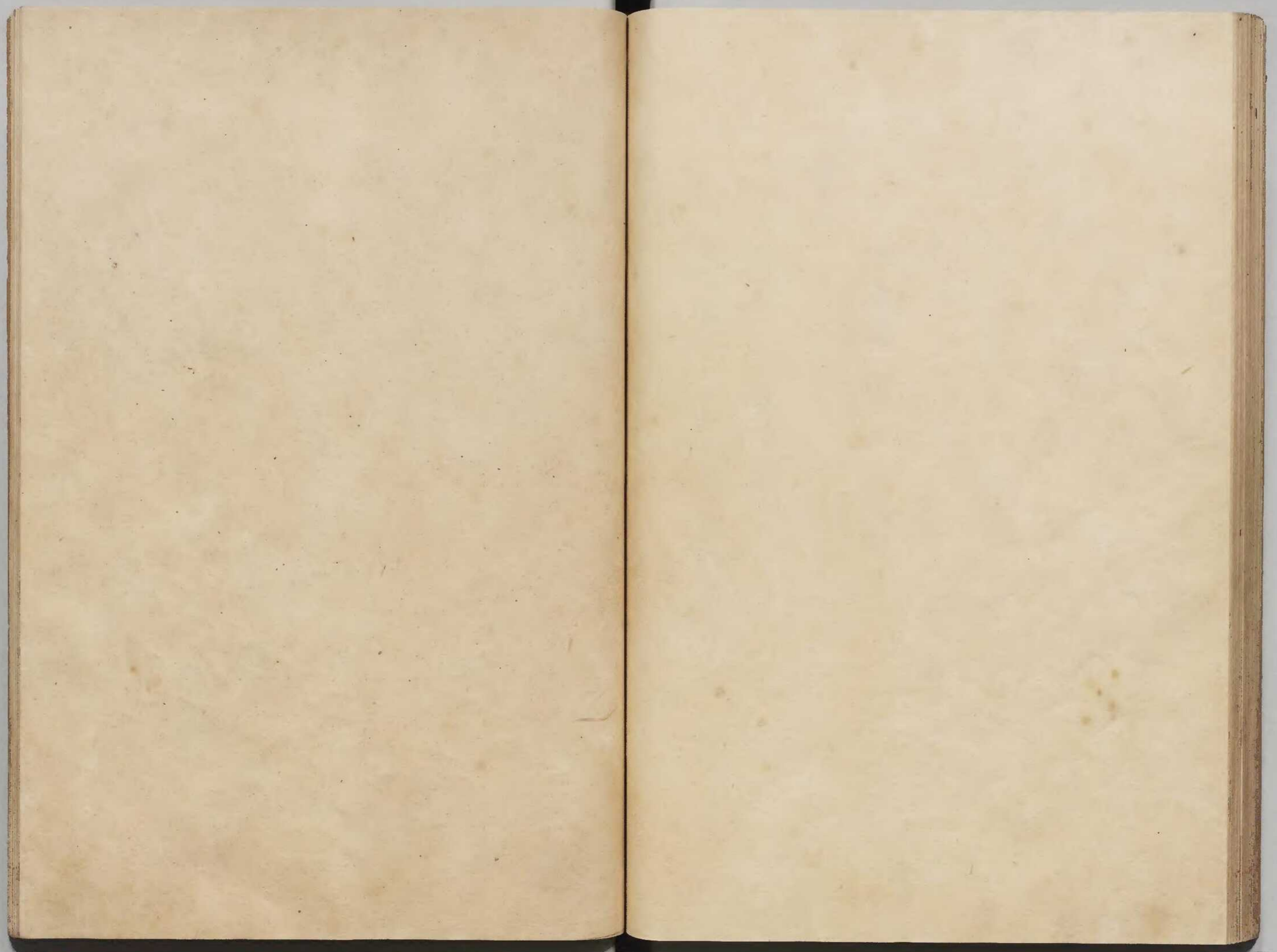
忠頼

勘大進尉 生五回

重俊

寛永十六年十二月廿八日年女七少く
病死 法名宗源

久九清門尉



彦坂

● 真

九三藩

生國之州

今川義元は此州田原におわす
我死時曰十二歳 法名宗悟

成光

八三藩

生國同あ

本多越前守廣高に属す
元和元年十月二日死す七十八歳
法名 紹悦

光正

九歳 生國同前

東照大権現へ侍入り 作よりて

駿府の町奉行也

元和二年

大権現所地界の砌より新室郷に侍り

同九年二月廿九日死す六十八歳

法名 正宗

重定

平六郎 生國相州

享長十五年

台徳院殿を奉り

寛永十年

為軍家の約命えんめいにより伊歩引野とあり

同十八年四月十一日死す十八歳

法名光源くわんげん

重直しげちか

九三歳 生國武州ぶしゅう

寛永十八年

為軍家へ法入す

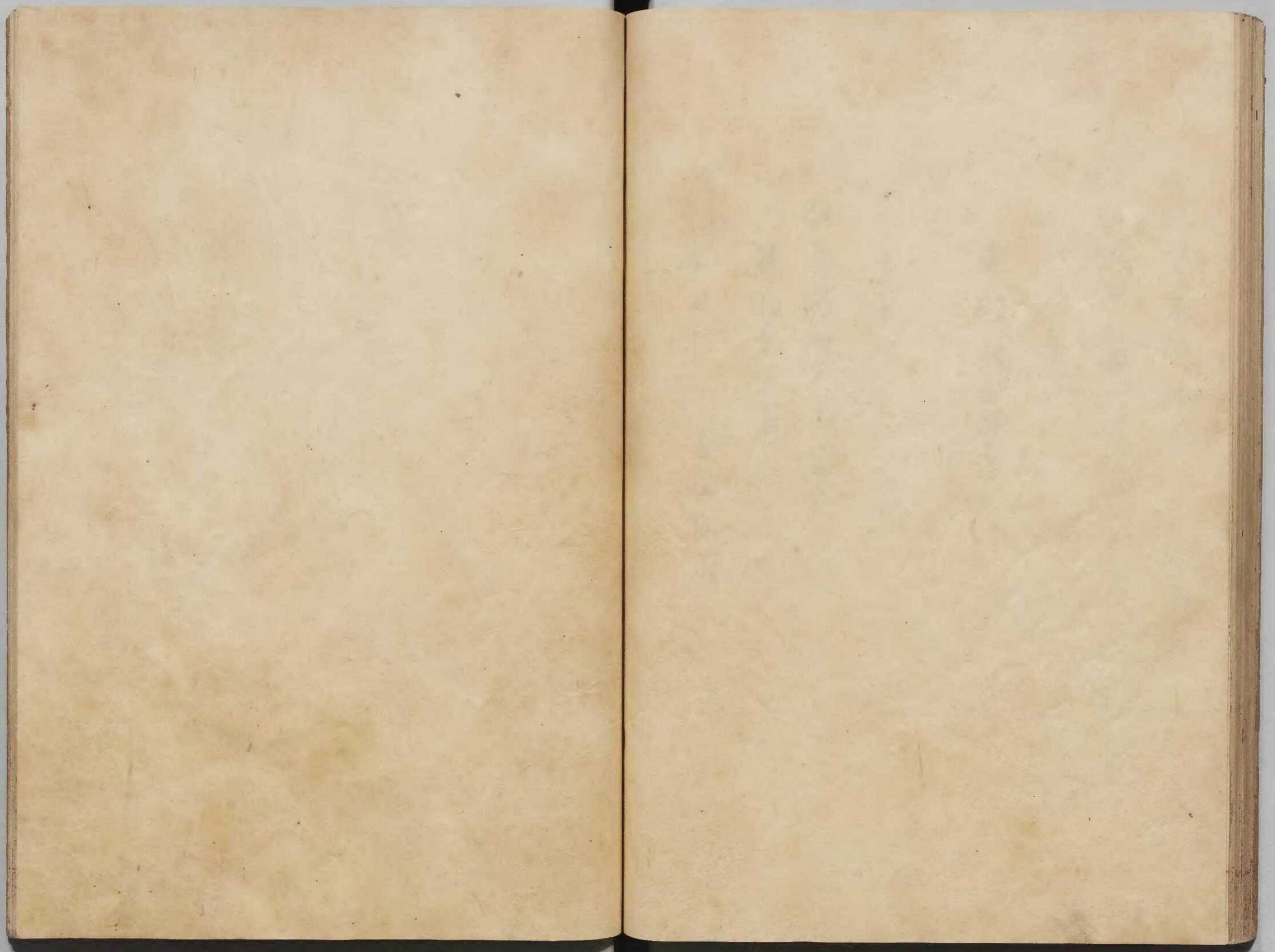
重助しげすけ

源之郎 生國同前

寛永十七年

為軍家へ法入す

家紋 劔鵄酸草いさな



高坂 ひささか

光宗 みつむね

刑部 むねぶ 左衛門 さゑもん

生國 なまくに 三州 さんしゅう

東照大権現とうしょうだいこんげん 石いしおおううふふ老年らうねん 及およくく其その
嫡子ちやくし 小刑部せうけいぶ として仕つかななりりししめめ 光宗みつむね

八閑居やくかん 居いすす

法名ほふな 淨光じやうくわう

宗有 しゅうりゅう

刑部右丞の 生國の 法名の 胸有の

大権現

台德院殿（法入）

吉成 きちせい

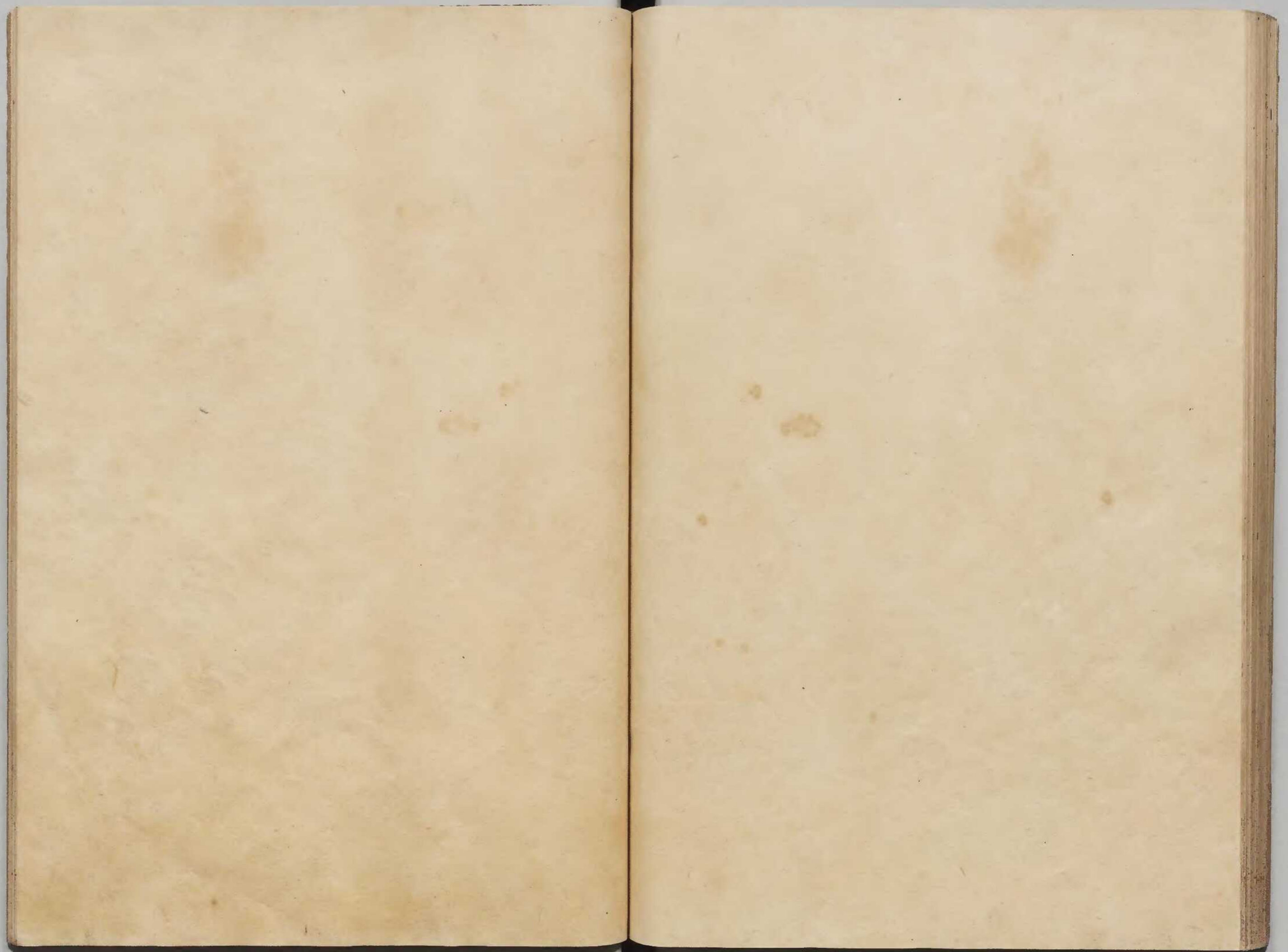
平九郎 生國の 伊豆の

大権現

台德院殿

將軍家（法入）

家の 級の 劔の 鳩の 酸草の



● 音次

清和源氏

酒季流

高屋

甚方連尉

生國を

武田信玄に

吉永うけふ

基^えた糸^{いと}の尉^{ゑい} 生^{なま}圃^ぼ甲^か州^{しゅう}

信^{のぶ}玄^{げん}少^{せう}のび^ひは膳^{ぜん}料^{りょう}に^にま^まさ^さご^ごふ

實^{まこと}ハ横^{よこ}子^こ監^{けん}物^{ぶつ}源^{げん}信^{のぶ}直^{ちか}が子^こなる信^{のぶ}直^{ちか}ハ

元^{げん}龜^き元^{げん}年^{ねん}駿^{せん}州^{しゅう}花^{はな}次^じ合^あ戦^{せん}の^の時^{とき}討^{うち}死^し

吉^う永^{けい}四^し十^{じゅう}三^{さん}に^には^はく^く病^{びやう}死^し

吉久いひ

庄^{しやう}左^さ衛^{ゑい} 生^{なま}圃^ぼ同^{どう}前^{ぜん}

膳^{ぜん}料^{りょう}少^{せう}のび^ひ

元^{げん}和^わ元^{げん}年^{ねん}十^{じゅう}二^に月^{げつ}九^く日^{にち}八^{はち}十^{じゅう}三^{さん}之^の歳^{さい}少^{せう}く

病^{びやう}死^し

種久なむ

庄^{しやう}左^さ衛^{ゑい} 生^{なま}圃^ぼ信^{のぶ}州^{しゅう}

寛^{かん}永^{えい}三^{さん}年^{ねん}

為^な軍^{ぐん}家^か子^こ為^な湯^{たう}を^をた^たぬ

いへのんく
家級黒餅

樋口 いづみ

貞家 まこと

右京亮 うきやうのあきら

生田甲州 なまがは

信玄 のぶひら 小法師 せうぼうし 越後陣 えちごじん 小幡 せうばん 付死 ついで

法名道久 ほうなみちひさ

吉次 きちじ

又兼

生田同家

法名道續 ほうなみちつぐ

信玄えげんななびび一一膳ぜん料りょうよよききごごぶぶ

天正十年てんしやう

東照大権現とうしやう甲州かうしゆ津入つひり圃う乃の内うちめめかからられれ
つつふふたたくくままらられれ

家次いえつぎ

又また藩はん 生圃せいぼ後ご州しゆ

大権現

古徳院ことくゑん殿でん

右軍みぎぐん家いへ子こ孫そん一一ををらられれ

家紋いへもん九く此こゝ内うちよよ之の引ひき

